

在スロバキア日本国大使館
政治・経済月報（2019年8月）

目 次

内 政

- ◆ジャーナリスト・クツィアク氏殺害事件の被疑者であるコチネル氏との関係を巡る動き・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- ◆政党支持率調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- ◆第75回スロバキア民族蜂起（SNP）記念式典・・・・・・・・ 4

外 政

- ◆チャプトヴァー大統領のドイツ及びオーストリア訪問・・・・・・・・ 4
- ◆スロバキア国会議員の中国訪問・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

経 済

- ◆スロバキア経済成長率の鈍化・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

別添：主要経済指標

※本月報は公開情報を在スロバキア日本国大使館がとりまとめたものです。

内 政

◆ジャーナリスト・クツィアク氏殺害事件の被疑者であるコチネル氏との関係を巡る動き

(1) ジャーナリスト殺害事件の被疑者4名の他の事件にかかる起訴(15日付スメ紙)

ジャーナリスト・クツィアク氏殺害事件について起訴されているコチネル氏以外の4名(ジュジョヴァー氏、アンドルシュコー氏、サボー氏及びマルチェク氏)が、シュフリアルスキ検事(注:コチネル氏とSMSで連絡をとっていたことがメディアに流れ、本年3月に第一副検事総長の座を退いている。)、ジリンカ検事(注:過去に違法不動産取引事件でコチネル氏を起訴。)及びリプシチ弁護士(注:過去にコチネル氏の不正金融取引を指摘。)の3名の殺害計画に関与したとして、14日に起訴された。

(2) コチネル氏と主要政治家との関係(15日付Dennik N紙、スロバキア国会プレスリリース及び20日付各紙)

携帯電話のアプリ上で、ダンコ国会議長、ブガールMost-Hid党首、フィツォ前首相、カリニャーク元内務相等の与党主要政治家とコチネル氏とのやりとりがあったとされ、これに関し、15日、ダンコ国会議長は記者会見を開いた。ダンコ国会議長は、コチネル氏と一度だけ面会したことを認めたが、コチネル氏の携帯電話のアプリ上でのやりとりに係る報道で名前が挙がっているジャーナリスト殺害事件の被疑者らとの関係を強く否定した。同議長は、ジャーナリストと一般市民が本件に関する情報を客観的に評価することを望むと述べた。

コチネル氏は、昨年3月のMost-Hid党の連立離脱の示唆による連立政権危機の際に、極右政党LSNS党との協力によりフィツォ政権を救う計画を目論んでいた。また、Most-Hid党離脱後の後任閣僚人事にコチネル氏が関与した可能性があり、極右政党LSNS党の解党に関する最高裁判所の審理にもコチネル氏が介入した可能性がある。

(3) LSNS党との協力の画策に関する情報を否定するSmer-SD党幹部による宣言(21日付TASR通信)

20日、Smer-SD党の幹部は、昨年のジャーナリスト殺害事件の直後に、政権を維持するため、同党が極右政党LSNS党から協力を得ようとしていたという携帯電話アプリ上でのコチネル氏の会話に基づく情報を否定する宣言を発出した。また、LSNS副党首も「我々はコチネルに何も借りはない」と述べた。

(4) コチネル氏と法務・司法・警察関係者らとの繋がりへの疑い(23日付Dennik N紙)

22日、警察は、コチネル氏と携帯電話アプリを通じて連絡を取っていた疑いのあるヤンコウスカー副法務相、ハイトヴァー・ブラチスラバ地方裁判所裁判官（ヤンコウスカー副法務相の妹）、パロヴィチ検察官及びその他数人のブラチスラバに勤務する裁判官の携帯電話を押収した。ヤンコウスカー副法務相はコチネル氏とのコンタクトを否定し、警察に完全に協力すると約束している。

また、コチネル氏はジャーナリスト殺害事件の警察捜査に係る内部情報を持っていた。これはガシュパル警察長官（当時）の親戚である実業家ボドール氏から得ていたものであるが、ボドール氏が警察内の誰から情報を得ていたかは、まだ確認できていない。

（5）スロバキアの現状に関するチャプトヴァー大統領のステートメント（26日付大統領府プレスリリース）

26日、チャプトヴァー大統領は、ジャーナリスト殺害事件の被疑者であるコチネル氏と司法関係者らとの関係性を巡る連日の報道を踏まえたスロバキア情勢に関して、以下のとおりステートメントを発出した。

「我々を保護し、また正義を保証する国家及び機関に対する信頼は、社会において最も脆弱なものであり、私は、その信頼に影響を与えるような、メディアがここ2週間で報じた情報を非常に懸念している。事件の被疑者らを支援した多くの人々は公職に就いたままであり、我々は、刑務所に収監されている事件の被疑者らが発するメッセージには社会的にも政治的にも影響力がない、という一部の政治家による発言を聞くと、これを警戒しなければならない。

スロバキアにおいて、我々は今、子供達がどのような国で暮らすべきかを決定する岐路に立っている。」

◆政党支持率調査結果（21日）

世論調査機関Focusによる8月の政党支持率調査の結果は以下のとおり。

政党	Focus	2016年選挙
Smer-SD（方向・社会民主主義）	20.8%	28.3%
PS/Spolu（プログレッシブ・スロバキア／共に）	14.9%	—
LSNS（我々のスロバキア）	11.4%	8.0%
SaS（自由と連帯）	7.9%	12.1%
KDH（キリスト教民主運動）	7.3%	4.9%
SNS（スロバキア国民党）	7.0%	8.6%
Sme rodina（我々は家族）	6.6%	6.6%

OLaNO（普通の人々・独立した人達）	6.1%	8.6%
Za ludi（人々のために）	5.5%	—
Most-Hid（架け橋）	4.3%	6.5%
SMK（ハンガリー系コミュニティ党）	3.5%	4.0%

◆第75回スロバキア民族蜂起（SNP）記念式典（29日付TASR通信及び30日付各紙）

29日、バンスカー・ビストリツァで行われた第75回スロバキア民族蜂起（SNP）記念式典に、チャプトヴァー大統領、ダンコ国会議長及びペレグリニ首相が出席した他、スロバキア国外からバビシュ・チェコ首相、ペンク・ポーランド議会上院副議長、サボー・ハンガリー国防副大臣、ウマハノフ・ロシア連邦議会連邦院副議長、トルストイ・ロシア連邦議会国家院副議長らが出席した。

チャプトヴァー大統領は、「75年前に人々が戦ったように、民主主義の価値、法の支配、自由、正義、人間の尊厳を守るために、我々自身が十分な勇気と決意を見出していくことを強く望む。我々は、75年前と異なり、武器を持ってナチス・ドイツの体制と戦う必要はないが、現在においても脅威は存在していると認識する必要がある。」と述べた。

ダンコ国会議長は、過激主義、虚言及びプロパガンダについて警告した。ダンコ国会議長によれば、過激主義にはファシズムによるものと古典的自由主義によるものの2つの種類があり、同議長は、「皆が、ファシスト及びリベラルな過激主義に屈しないことを望む。過激主義者らは、皆の考えと愛すべきスロバキアをコントロールするために皆を操り嘘をつく。」と述べた。

ペレグリニ首相は、「過激主義者はより洗練され、政治的には、特に若年者の興味を引こうと試みる。そのため、我々は若年者に対して寛容を教え、ファシズムがどのようなものなのか示さなければならない。世界の支配を追求し、誰が超人であり、どの人種が劣っているのか、そして誰が生きる権利を持っている、またその権利を持っていないのかを恥知らずに決定していたイデオロギーが、第二次世界大戦において敗北したということを若年者に教えましょう。」と述べた。

外 政

◆チャプトヴァー大統領のドイツ及びオーストリア訪問

（1）ドイツ訪問（21日付TASR通信及び22日付大統領府プレスリリース）

21日、チャプトヴァー大統領は、ベルリンにてシュタインマイヤー独大統領及びメルケル独首相と会談を行った。

シュタインマイヤー独大統領との会談では、英国のEU離脱について議論された。両大統領は、将来的に、相互の信頼、理解、連帯、協力の上に強く、連帯した欧州が形成されることに同意し、チャプトヴァー大統領は「既存の欧州の自由が社会の安定を通じて発展し強化されることを望む。」と述べた。また、チャプトヴァー大統領はシュタインマイヤー独大統領をスロバキアに招待すると共に、11月9日にベルリンの壁崩壊30周年記念行事に参加することを確認した。

メルケル独首相との会談では、同首相から昨年スロバキアで発生したジャーナリスト・クツィアク氏殺害事件の捜査に関心が示されたところ、チャプトヴァー大統領は、「事件の捜査は加害者の特定とその処罰に向かって進行している。」旨の説明を行った。

その他、双方は、EU及びBrexitについても言及し、連帯したEUの必要性について同意した。チャプトヴァー大統領は、英国の合意なきEU離脱によって、英国に居住する約10万人のスロバキア人にネガティブな影響を及ぼす可能性があることに留意し、「Brexitはいくつかの国で直面しているポピュリズムの典型的な結果である。決定的に必要なのは、合意に基づくBrexitである。」と述べた。

会談後、チャプトヴァー大統領は、「分裂を克服するのにドイツほど多くの経験を有する欧州の国はない。欧州においてドイツの声がはっきり聞こえることを望む。」と述べた。

(2) オーストリア訪問 (30日付大統領府プレスリリース)

30日、チャプトヴァー大統領は大統領就任後初めてオーストリアを訪問し、フォン・デア・ベレン・オーストリア大統領と会談を行った。会談後、チャプトヴァー大統領は次のとおりコメントした。

「30年前、オーストリアがスロバキア市民に対して国境を開いたことに謝意を表す。スロバキア市民に対する国境の開放は、鉄のカーテンの撤去、また欧州において自由と民主主義を取り戻すことに非常に貢献した。今回、フォン・デア・ベレン大統領との間で、自由を守るために我々にできる全てのことを行うことが今日における我々の義務であるということに同意した。

また、同大統領との間で、EUメンバーシップにより、現在の二国間関係が最も良好な状態にあることに同意した。良好な二国間関係は、インフラ、文化、教育などの多くの具体的なプロジェクトや非常に強固な経済協力によって示されている。自分がフォン・デア・ベレン大統領と、環境保護について共通の関心を有していることは周知のとおりであり、我々は将来の協力について具体的に議論した。気候変動危機への取組みに関して高い志を求めるフォン・デア・ベレン大統領のイニシアティブと連携することができ非常に嬉しく思う。

スロバキアとオーストリアとの間では、当然、諸問題に対して異なる意見が存在する。しかし、事実に基づいて冷静に意思疎通を図り、共通の解決策を見出すために誠実に取組むことが重要である。」

◆スロバキア国会議員の中国訪問（27日付 Dennik N 紙）

10名（与党8名，野党2名）のスロバキア国会議員は中国政府からの招待を受け、数日間、北京及びチベットを訪問し、25日に帰国した。議員団は、中国外務省や中国共産党本部等を訪れ、複数の会談を行った。

今回、訪中議員団長を務めたのはブラハ・スロバキア国会欧州問題委員会委員長であり、ブラハ議員は自身のフェイスブック上で、「香港における暴動は、米国の支援を受けたカラー革命に対するリベラルな試みであり、デモの参加者は暴力に訴え、中国は忍耐力を失いつつある。私は中国のパートナーに支持を表明し、スロバキアは一部の西欧諸国と異なり、他国の内政に干渉しないことを保証した。」と述べている。

他方、野党議員として本訪中に参加した SaS（自由と連帯）党のクルス議員は、中国で香港の話題は出なかった旨主張しており、同議員は、「在中国のスロバキア大使館や中国側に対して、ブラハ議員の意見はスロバキア議員団の意見ではないと説明した。ブラハ議員はスロバキアの公式な立場から述べているのではない。香港や台湾に関するブラハ議員の発言は、スロバキア又は野党の立場からのものではない。」と述べている。また、クルス議員はチベット訪問に関して、「チベット自治区における会談では、中国の指導者があらゆる種類のプロパガンダを促進しようとしているようには感じなかった。」と述べている。

経 済

◆スロバキア経済成長率の鈍化（13日及び15日付経済新聞）

6月、スロバキアの産業セクターの半分以上で産業生産が減少し、前年同期比で2.1%の減少を記録した。これは、スロバキア経済が景気の後退局面に入ったことを示唆する。

スロバキア統計局は、2019年第二四半期のスロバキアの経済成長率が前年同期比3.5%成長すると見込まれていたところ、実際は1.9%（速報値）成長にとどまった旨公表した。経済成長率1.9%は、2013年第三四半期以降で最も低い成長速度である。

現在の状況は、スロバキアの輸出の20%が向かうドイツ経済の減速とスロバキアにおける高い電気料金によって引き起こされている。加えて、労働者に対するリクリエーション・バウチャーや最低賃金の引上げ等のスロバキア政府の措置も産業界に対する足かせとなっている。

経済成長速度が低下する状況において、与党が、従業員のための減税、食物に係る付加価値税の軽減又は年金額の増加等を約束する社会パッケージをどのように実施するのか疑わしく、公債が発行される可能性があり、カメニツキー財務相は各省庁に対し節約を求めている。

(了)

スロバキア主要経済指標

(出典:スロバキア統計局)

